

# ヒブワクチン予防接種などの補助が拡大

## 来年2月から実施見込み

12月市議会最終日、補正予算が提案され全会一致で可決しました。

ヒブワクチン接種補助拡大、小児用肺炎球菌ワクチン接種補助実施が盛り込まれています。

全額補助（無料化）が可能な金額が確保されていますが医師

会との調整中で自己負担額は確定していません。実施は来年2月からになる見通しです。

### 背景に

#### 党国会議議員団の力

国が半額負担する補助を予算化した背景には、小池晃前参員など日本共産党国会議議員団の活躍があります。

細菌性髄膜炎の予防のための「インフルエンザ菌b型ワクチン接種及び肺炎球菌ワクチンの早期承

認に関する質問主意書」でヒブワクチンの効果や副作用などについて情報提供を積極的に行うこと、

ワクチン接種の費用負担の軽減を図ることを小池前議員が求めたところ、07年7月回答のあった、政府答弁書では、

「ヒブワクチンの有効性や安全性等に関する治験等を更に蓄積する必要がある、専門家からなる研究班を速やかに立ち上げる」こと、

効果や副作用についての情報提供については「速やかに情報提供するよう指導すること」

「（負担軽減については）有効性や安全性を踏まえて判断したい」というもので

国の検討過程を経てヒブの他に小児用

肺炎球菌、HPV（子宮頸がん予防）の3ワクチンへの補助予算化です。

尾張旭市では、ま

ず年度内に2つ対応が決まりました。

（HPVについては来年度と見込まれます。）

七ワクチン接種補助を12月議会質問で求めました



師会が行っていたキャンペーンを紹介しながら、B型肝炎、水痘、おたふくかぜの3つと、さらに他市で実施されている高齢者用肺炎球菌ワクチンについても補助を行うよう求めました。

高齢者用肺炎球菌ワクチンについては来年度実施が検討されていることがわかりましたが、その他は国の動向を見ながらという答弁でした。

今後とも安価に予防接種が受けられるように求めゆきます。

なお、国の補助が見込まれていた3ワクチンと高齢者用肺炎球菌ワクチンについては公明党伊藤議員も質問をしました

が同内容の項目を含む陳情に反対していません。（ヒブ、小児用肺炎球菌、HPVの3ワクチンは2011年1月20日現在補助決定しました。）

道路に立っている電柱などは市に場所代（道路占用料）を払っています。

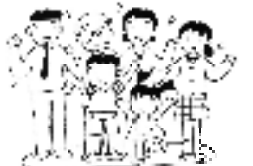
NTTや中電などのものがほとんどですが、地価下落の中で値下げが検討されています。

従来、その場所代は県条例そのままの数字を用いてきましたが、6月議会、川村議員が質問で「従来の方針では、第1種電柱を例にすると、名古屋市では一本あたり年額3000円、尾張旭市は県ならつて840円ということになる。」

「名古屋市と隣接する本市では、県の数字をそのまま使うと低すぎるのでは？」

「地価から独自に計算すれば収入が見込めるのでは？」と追求。

答弁は否定的なものでしたが東京では区毎、自治体毎に独自計算していること



## 道路占用料の見直しで、当初計画より700万円の増収

### 川村議員の6月議会質問実る

を川村議員が紹介。

もし下げすぎた場合、制度上それを戻すのに数年かかる可能性も指摘し、条例改正が提案されるであろう12月議会までに再検討するよう求めていました。

12月議会、道路占用料改定案を市が提案。自身は、従来方針を見直し独自算出したことで、県に比べれば1100万円の減収となるものが、400万円の減収で済むというもの。

市の減収を700万円抑えることができました。

短い期間で頑張ってくれた市職員にも謝辞を送りたいと思います。

大きな企業にもハッキリものが言える日本共産党の議員だからこそできた追求でした。